

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：87106

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05669

研究課題名（和文）在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Japanese Buddhist Art in Europe: Digitization and Synthetic Study of Japonism

研究代表者

島谷 弘幸（Shimatani, Hiroyuki）

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・未登録・館長

研究者番号：90170935

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000円

研究成果の概要（和文）：欧州には日本仏教美術品が数多くあるが、その分野の専門家が少ないために殆ど調査がなされていなかった。本研究ではそれらを網羅的に調査・研究して来歴・性格等をつかみ、デジタル化してそのデータを公開するに至った。調査ではドイツ・ケルン東洋美術館所蔵の仏教美術品の悉皆調査を行なうなど、これまで知られていなかった貴重なコレクションの内容が判明している。また、これらの仏教美術品の分析を通して仏教美術品が欧州における日本観の形成に多大な影響を与えていることも明らかになった。各博物館からは今後も情報を提供してもらえることになっており、本プロジェクトは仏教美術品を通して日本と欧州の新たな関係を構築したと言えよう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで調査の手が十分に及んでいない在欧の博物館・美術館を中心に調査を実施し、デジタルデータを数多く蓄積した。調査成果およびデジタルデータを所蔵者にフィードバックすることにより、コレクション情報を適正なものに更新するとともにデジタルデータの公開によって館の公益性を高めることにも寄与した。調査の実施は所蔵者がコレクションを再認識する機会ともなり、欧州側の日本美術研究の進展にも大きな役割を果たした。

研究成果の概要（英文）：There is a large amount of Japanese Buddhist art in Europe. Yet unfortunately, because of the limited number of scholars in this field, research on this topic has remained modest. For this reason, we have extensively researched the Buddhist art traveled from Japan to Europe and identified their information. We have then digitized them and publicized the data. Through our project, including the exhaustive research at the Museum of East Asian Art at Cologne Germany (Museum für Ostasiatische Kunst Köln), we were able to discover a valuable new collection of Japanese Buddhist art in Europe that was previously unknown. At the same time, our extensive fieldwork had let us understand that Buddhist art had given a significant impact on generating Japanese image in Europe. Many museums in Europe had promised to continue supporting our project. We believe that through Buddhist art, our project enabled us to establish a new and unique relationship between Japan and Europe.

研究分野：美術史

キーワード：日本美術史 仏教美術 博物館 美術館 日欧交流 日本学 日本観 文化人類学

1. 研究開始当初の背景

(1) 2000年代の初めから、ヨーロッパの博物館・美術館における日本関係コレクションの歴史とその現状が明らかとなった。わずかな国立博物館等を除いてほとんどの博物館・美術館に日本専門の学芸員がいないため、各コレクションの内容を把握することが難しく、大学側にも特に日本美術あるいは民俗学専門の教員が少ないという状況であるため、日本の専門家の協力が必須であることが判明したのである。在欧の日本美術のコレクションは50万点以上とされるものの、その大きな部分を占めるのが浮世絵・版画のコレクションである。しかしながら、江戸時代のケンペルやシーボルトが持ち帰ったコレクションや、明治期の廃仏毀釈を契機としてイタリアのキヨッソーネらコレクターが収集した仏教美術作品などがもたらされている。それら仏教関係の美術品がヨーロッパにおける日本文化の理解の道具として認識されており、浮世絵・版画をもとにしているジャポニスムと平行して、仏教的日本文化がもたらすイメージに注目することが必要であることを確認できた。

(2) この一連の研究を基礎とする、全欧州の博物館・美術館に保管されている日本仏教美術の悉皆調査研究を行い、その成果をデータベース化し、またそれを通じてヨーロッパの日本観を分析する研究プロジェクトが2011年から3年に渡って法政大学国際日本学研究所で行われた（「欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究」）。このプロジェクトではラジ・シュタイネック(チューリヒ大学)の協力を得、またシュタイネック智恵(チューリヒ大学)に欧州側との契約等の交渉を担当してもらうことができた。しかし、すでに触れたことであるが、欧州の博物館・美術館には日本美術史なにかんづく日本仏教美術専門の担当学芸員がほとんどおらず、そのせいで博物館に提出してもらった資料も概要しかわからないものがほとんどであり、その上、現地調査の協力を得ることも困難を極めるという状況であった。こういった課題は、最終報告として2012年6月ポーランド Palac Lochow で開催した国際シンポジウム(R.Steineck, J.Kreiner, T.Steineck 編 2013)において浮き彫りとなり、日欧で共同研究を進めることの重要性を改めて認識するに至った。

(3) これまでも主だった博物館・美術館に保管されているコレクションのデジタル化が推進されてきており、日本側からの大型な調査研究プロジェクトも進んでいる。例えば赤間亮教授を中心とする立命館大学の浮世絵版画の悉皆調査、人間文化研究機構(国立歴史民俗博物館：ヨーロッパにわたった19世紀の日本コレクション(具体的にシーボルト父子のミュンヘン五大陸博物館とウィーン工芸美術館及び世界博物館(前民族学博物館)に保管されているもの)、国立民族学博物館：サンクト・ペテルブルグのクンストカメラのコレクションの調査)を挙げることができるが、仏教美術の調査研究はそれと比べると遅れている部分があると言っても過言ではない。

(4) こういった状況に鑑み、2013年から3年間にわたり、本プロジェクトの前身ともいえる「在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信」(基盤研究(B)、研究代表者: ヨーゼフ・クライナー Kreiner Josef)による調査を実施してきた。しかしながら、その成果は十分と言えるものではなく、いまだ多くの重要な美術館・博物館が手つかずのまま残されることとなり、継続的に調査を行なう必要性があった。

2. 研究の目的

(1) 第一の目的はヨーロッパ(ここで述べるヨーロッパとは、ウラル山脈までのロシア、トルコ、イスラエルを含めた欧州全地域)の博物館・美術館に保管されている日本の仏教美術(彫刻、絵画、書、法具、袈裟等の染め物・織物)のすべてを把握することと、それらのデータベース化である。この場合、コレクターの個性、収集の目的、ヨーロッパでの調査研究、展示、発表等に注目する必要がある。また、モノ自体の作者、由来、記述に関してもできるだけ詳しい調査をしなければならない。データベースは以前のプロジェクトで作成された法政大学国際日本学研究所の Japanese Buddhist Art in European Collections JBAE (<http://aterui.i.hosei.ac.jp:8080/index.html>)において一般公開されている英文(将来的に和文の訳もつく予定)のデータベースを利用する。令和2年2月現在で20カ国55博物館から4020件の作品が掲載されているが、まず、それらを保管・管理する各博物館・美術館(場合によっては国の文部省等の担当機関)と契約を結ぶ必要があった。

(2) 最終的な目的は、こういったコレクションがヨーロッパにおける日本文化のイメージ、日本観、あるいはまた宗教ないし思想・哲学としての仏教(ここでは Henri Cernuschi の活躍に注目する必要がある)についての考え方にいかに影響を及ぼしたのか、そして、それを形付けたかの考察をすることである。

3. 研究の方法

(1) まず日本仏教美術のコレクションを所有する各博物館・美術館の中で、できるだけ幅広く、収蔵数の多い博物館・美術館と連絡をとって、そのコレクションに含まれている仏教美術関係のものを報告してもらうことが重要である。各博物館・美術館から提供を受けた日本コレクションの情報をもとに、相手側博物館・美術館の学芸員あるいはヨーロッパ人協力者と共に、プロジェクトに参加してもらった日本人研究者、専門家あるいはまた外国共同研究者による実地調査を国際・学際的共同研究の形で行った。

(2) この調査研究で得た情報を相手側の博物館・美術館に提供するほか、学会・一般公開講演会を通してヨーロッパおよび日本において紹介した。調査等で収集したデータは法政

大学国際日本学研究所が公開している Japanese Buddhist Art in European Collections (JBAE) に組み込み、画像付データベースとして広く一般公開した。また諸般の事情ですぐに公開できない作品についても、関係者間では情報共有した。

4. 研究成果

初年度は計画全体を見通した円滑な調査活動を進展させるために、包括的な事前交渉に力を入れた。これまで調査の手が及んでいない博物館・美術館を中心に、新たな仏教美術作品の発掘と、所在が確認できなくなっている作品の調査要請など行うため、いくつかの主要な施設の館長ないし学芸部長に面会し、また現場の責任者などとも打ち合わせを繰り返した。当企画への協力とデータの公開のための契約書締結交渉も同時に行っている。

主要な博物館・美術館としては、ギリシア・国立コルフ東洋美術館、フィンランド・ヘルシンキ国立博物館およびヨーエンスー芸術博物館の予備調査、DKM博物館、フォルツワング美術館、ハンブルグ美術工芸博物館の調査、ケルン東洋美術館、ハイデルベルク・ポルトハイム民俗学博物館の予備調査を行ない、作品調査・撮影なども行なった。ハンブルグ美術工芸博物館では館の協力も得て、はめ殺しのケースから取り出して詳細な調査を行ない、鎌倉時代の優品を見出すことができた。博物館・美術館との面談に際しては、現地からの要請に応じて様々なアドバイスを与えることもでき、互いの信頼関係を固めることもできた。

2年目には、フィンランド国立博物館にて、同館が運用する所蔵品データベースを日本で連携して運用するための調査を行なった。ハイデルベルク・ポルトハイム民俗学博物館では前年度実施の予備調査を経て、日本仏教美術作品の調査及び高精細撮影を行なったほか、ハイデルベルク大学において調査成果を速報的に発表した。そのほかイタリア・アラパチス博物館、バルベリーニ宮、ピゴリーニ国立民俗博物館、ウフィッツィ美術館にて日本仏教美術作品の調査および撮影を実施し、ドイツ・ブレーメン世界博物館にて日本仏教美術作品の調査および撮影を行なうなどしたが、いずれの調査でも有意義な成果を得ることができた。

3年目には、ドイツ・ブレーメン海外博物館において追加調査を行なった。同館は欧州ではめずらしい石造作品のコレクションを所蔵しており、鎌倉時代から南北朝時代にかけての紀年銘を持つ板碑が見いだされたことは特筆すべきであろう。ドイツ・ミュンヘンの五大陸博物館では予備調査を行なったほか、フィンランド国立博物館において日本仏教美術の調査および高精細撮影を行ない、ヒエッカ美術館においても日本仏教美術作品の調査を実施した。フィンランド2か所については、日本人による初めての調査となった。

最終年度となる4年目には、ギリシア・コルフ島の国立アジア美術館における金工調査(小口、シュタイネック智恵、末兼)実施し、同館所蔵の日本仏教美術の全貌が明らかになった。金工品のうちに大変珍しい五鈷柄剣を見出されたほか、金工品の保管方法など環境面でのアドバイスも行なうなどした。2020年2月にはロシア・エルミタージュ美術館、州立宗教史博物館、クンストカメラ博物館(島谷、河合、小口)、プーシキン美術館、ロシア国立東洋美術館、トレチャコフ美術館(河合)において調査・協議等を行なった。質量ともに

豊富であったのはロシア国立東洋美術館であるが、今回の調査によって、これまで知られていた日本仏教美術作品の倍近い数の作品を見出すことができ、欧州におけるジャポニズムの研究をさらに進めるための貴重な素材を得た。

この一連の研究によって、ヨーロッパにおける日本関係コレクションの性格がかなり明らかになった。すなわち、約 350 の博物館・美術館に保管されている 50 万点以上の日本コレクションの内、およそ 3 分の 2 は浮世絵・版画が占めるが、仏教美術品は当初の予想よりも収集数が多く、また浮世絵のコレクションとほぼ同時代、すなわち明治時代(= 神仏分離)に収集されたものである。このことはすなわち、ヨーロッパにおける日本観は浮世絵と印象派との深い関係のみならず、同時代に収集された仏教美術によっても徹底的に形作られていたということも示している。近年、ヨーロッパで新設された、いくつかの東洋美術館(ドイツ・ランゲン財団、ドイスブルクの DKM 財団法人、イタリア・トリノ市立東洋美術館、ロシア・サンクト・ペテルブルクの宗教史美術博物館)は、明治初期に収集されたチェルヌスキやギメーのコレクションと同じく、仏教美術を通じた日本文化理解に深い関わりがある点を重視しなければならない。ヨーロッパにおいて日本仏教美術を収集する意味は、キリスト教に基づく思想や価値観の相対化をうながし、世界史的な見地から社会変革を目指すことにあるといえよう。今後、欧州における仏教美術調査が進展すれば、各地に分散した大小さまざまなコレクションから、19 世紀の日本に対する欧州からの学術的関心の実相が明らかになるはずである。

なお調査によって明らかになった、欧州におけるジャポニズムを明らかにする上で重要な作品の分析については、その都度、『法政史学』連載「在欧美術館・博物館所蔵の日本仏教美術を訪ねて」で広く各学界に詳細に紹介している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 須藤弘敏・浦木賢治・西川真理子	4. 巻 12号
2. 論文標題 加須市徳性寺蔵紺紙金字法華経について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小口雅史・千々和到・野口達郎	4. 巻 91
2. 論文標題 在欧美術館・博物館所蔵の日本仏教美術を訪ねて（3） - ドイツ・ブレーメン 海外博物館の巻	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政史学	6. 最初と最後の頁 91-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本聡美	4. 巻 53
2. 論文標題 宝蔵絵の再生 伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本聡美	4. 巻 53
2. 論文標題 「画中詞研究への視座 絵と言葉のナラトロジー」報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島谷弘幸	4. 巻 図録
2. 論文標題 書の楽しみ方とその魅力	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 王羲之と日本の書 (図録)	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水健	4. 巻 33
2. 論文標題 春日赤童子の画像について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第882回 国指定重要無形民俗文化財 春日若宮おん祭 (おん祭解説書)	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 3
2. 論文標題 Futanari, Between and Beyond: From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll of Illnesses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Asian Humanities at Kyushu University (JAH-Q)	6. 最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://hdl.handle.net/2324/1916274	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 24
2. 論文標題 共立女子大学図書館所蔵絵巻の基礎的研究 「竹取物語絵巻」「利仁草紙」「異疾之巻物 (病草紙模本)」「鳥羽絵巻物 (鳥獸戯画模本)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 共立女子大学総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 140-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://id.nii.ac.jp/1087/00003181/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野尻忠	4. 巻 15
2. 論文標題 口絵解説 大般若経(魚養経)巻第二百五十一	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 正倉院文書研究	6. 最初と最後の頁 143-145
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻忠	4. 巻 20
2. 論文標題 薬師寺伝来の大般若経(魚養経)と正倉院文書にみる宝亀初年の一切経書写	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鹿園雑集	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小口雅史	4. 巻 88
2. 論文標題 資料紹介 在欧美術館・博物館所蔵の日本仏教美術を訪ねて(2) ドイツ・ハイデルベルク ポルトハイム基金民族学博物館の巻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法政史学	6. 最初と最後の頁 80-100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野尻忠	4. 巻 上 律令国家篇
2. 論文標題 史料としての経典跋文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古代史料を読む	6. 最初と最後の頁 179-181
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 クライナー・ヨーゼフ	4. 巻 26
2. 論文標題 シーボルト父子の日本コレクションとヨーロッパにおける日本研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 9-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚紀弘	4. 巻 15
2. 論文標題 天野山金剛寺一切経の来歴について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 寺院史研究	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚紀弘	4. 巻 825
2. 論文標題 鎌倉時代の日宋交流と南宋律院	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小口雅史	4. 巻 86
2. 論文標題 在欧美術館・博物館所蔵の日本仏教美術を訪ねて (1) -フィンランド・ヨエンスー美術館の巻-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法政史学	6. 最初と最後の頁 70-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 蓮華王院宝蔵「六道絵」の新解釈 阿修羅道としての「辟邪絵」
3. 学会等名 国際シンポジウムBorders, Performance, and Deities（境界、芸能、神仏）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 絵巻入門 物語を伝える色と形
3. 学会等名 北京日本学研究中心センター絵巻セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 病苦図像の源流 静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について
3. 学会等名 東京文化財研究所2018年度第7回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 九相図 朽ちてゆく死体の美術
3. 学会等名 第87 回日本法医学会学術関東地方集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小口雅史
2. 発表標題 細井浩一「“同床異夢”か“異榻同夢”か～日本文化の資源化に関する研究と政策」へのコメント（第3部ラウンドテーブル）、第4部総合討議
3. 学会等名 国際ワークショップ「人文科学と社会科学の対話 国際日本研究の立場から」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 The Resurgence of a Picture Scroll from the Rengeo-in Treasury: Prince Sadafusa's Copy of and Insertion of Poems within The Illustrated Scroll of the Battle of Breaking Wind
3. 学会等名 Movement and Materiality in Japanese Art, The Mary Griggs Burke Center for Japanese Art, Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 宝蔵絵の再生 伏見宮貞成親王による「放屁合戦絵巻」転写と画中詞染筆
3. 学会等名 説話文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 近世合戦図の図像学 大阪歴史博物館蔵「関ヶ原合戦図屏風」を中心に
3. 学会等名 軍記と語り物研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水健
2. 発表標題 春日龍珠箱に描かれた十二宮をめぐる
3. 学会等名 天文文化研究会第16回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 「往生要集の美術」 九相図から読みとく源信の思想
3. 学会等名 天台宗布教師会関東信越地区協議会平成28年度研修会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 病草紙における絵画様式の再検討
3. 学会等名 美術史学会東支部例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 病草紙 内なる異界としての身体
3. 学会等名 大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」、第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会 「日本古典籍への挑戦 知の創造に向けて」パネル3「中世の異界 内と外」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 The End of the “Sisters’ Power”: From Male Shamans to Hermaphrodites in The Illustrated Scroll of Illnesses
3. 学会等名 2017 Annual Conference of AAS(The Association for Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野尻忠
2. 発表標題 明治維新と廃仏毀釈
3. 学会等名 特別講演会「歴史と共に考える文化財の防災・減災」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森實久美子
2. 発表標題 明恵の釈迦信仰
3. 学会等名 学術講演会「明恵と高山寺」
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 佐藤信・小口雅史編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 310
3. 書名 古代史料を詠む 下 平安王朝篇	

1. 著者名 山本聡美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 213
3. 書名 闇の日本美術史	

1. 著者名 加須屋誠・山本聡美編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 259
3. 書名 病草紙	

1. 著者名 小峯和明監修・出口久徳編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 344
3. 書名 日本文学の展望を拓く2 絵画・イメージの回廊	

1. 著者名 佐藤信・小口雅史編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 322
3. 書名 古代史料を読む 上 律令国家篇	

1. 著者名 大塚紀弘	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 348
3. 書名 日宋貿易と仏教文化	

1. 著者名 山本聡美ほか18名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 496
3. 書名 生活と文化の歴史学 8 自然災害と疾病	

1. 著者名 山本聡美ほか5名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 病草紙	

1. 著者名 野尻忠、佐々木勇	4. 発行年 2017年
2. 出版社 奈良国立博物館	5. 総ページ数 128
3. 書名 慈光寺所蔵「大般若経（安倍小水麻呂願経）」の調査と研究	

1. 著者名 野尻忠ほか23名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 742
3. 書名 東大寺の新研究2 歴史のなかの東大寺	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小口 雅史 (OGUCHI Masashi) (00177198)	法政大学・文学部・教授 (32675)	
研究分担者	大塚 紀弘 (OHTSUKA Norihiro) (10468887)	法政大学・文学部・講師 (32675)	
研究分担者	丸山 士郎 (MARUYAMA Shiro) (20249915)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・室長 (82619)	
研究分担者	河合 正朝 (KAWAI Masatomo) (30051668)	慶應義塾大学・文学部(三田)・名誉教授 (32612)	
研究分担者	恵美 千鶴子 (EMI Chiduko) (60566123)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・室長 (82619)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	須藤 弘敏 (SUDO Hirotoshi) (70124592)	弘前大学・人文社会科学部・教授 (11101)	
研究分担者	森實 久美子 (MORIZANE Kumiko) (70567031)	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部文化財課・主任研究員 (87106)	